

# 七浜

## 第165号

福島県公立学校  
退職校長会  
いわき支部  
発行責任者 一  
沢 宏 集  
編 集 委 員 会  
七浜編集委員会

### 本号の主な内容

- 1面 新年を迎えて(支部長あいさつ) 新春諷詠 事務局だより
- 2面 新春に思う 市小中学校長会役員との懇談会
- 3面 市教育長・教育事務所長との懇談会
- 4面 賀詞伝達の様子 感謝状受章者から
- 5面 十日会の様子 叙勲の栄誉に輝く
- 6面 出版文化賞を受けて 方部の伝言板(逝去を悼む)冥福を祈ります
- 7面 第2回講演会報告 8面 文芸

## 新年を迎えて

### 二つの新聞

いわき支部長 沢 宏 一



いよいよ令和6年の幕が開きました。退職校長会いわき支部の会員の皆様方に、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

これまでの約3年半にわたるコロナ禍がようやく過ぎ、少しずつ「日常」が戻ってきましたように思います。この間、「高齢者は重症化リスクが高い」と言われ、皆苦しい毎日を過ごされてきたことと思います。

さて、12月の新聞に、県人権作文コンテストで最優秀賞



に輝いた小名浜第一中学校の星さんの作文が掲載されました。その中に、あるドラマの『音のない世界は悲しい世界じゃない。うれしいところもいっぱいある。聴者もろう者も同じ』という台詞を聞いて、自分の考えが変わった。そして私は、将来人に寄り添う仕事に就きたい...という内容でした。

また、別の新聞には、災害等大きなストレスを経験した後に、人間的に成長する『心的外傷後成長』は、社会と強くつながることで獲得できるのだという、福島医大の川島氏の研究チームの研究発表の記事を読みました。

二つの記事の内容は大きく異なりますが、様々なハンデやストレス、困難等に相対した時に、ピンチではなくチャンスととらえられる心の持ち

私には、今こそ経済的な豊かさではなく「心の豊かさ」こそが大切な時だと思えます。今年は、そういう年にしたいものだと強く思いました。

## 新春諷詠

健康長寿へ 引地 晴子

てくてくと適度な動きかみかみと  
規則正しき三度の食よ

にこにこ心健やかどきどきと  
五感を使ひ感動の日へ

四温光 高橋 彦士

句籠りの机辺みだるる四温光

鳥影の降るしづけさや春障子

### 事務局だより

令和5年度は、「総会」「いわき十日会青少年健全育成協議会」が4年ぶりに、「いわき十日会」が役員参加となりましたが5年ぶりに、開催されました。コロナ感染症が5類に移行される中、退職校長会の活動も少しずつ戻りつつあります。また、昨年度に引き続き佐久間静子先生・高羽博樹先生・武藤忠晴先生の有意義な講演会も実施することができました。会員の皆様のご協力に感謝しております。

今後とも私たち事務局は、会員の方々とともに会の運営を進めていきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

#### 【年度末の予定】

- ①会計監査 3月16日(土) 11時より 中央台公民館
- ②理事会 3月16日(土) 13時30分より 中央台公民館
- ③支部総会 4月27日(土) 13時より 椿山荘

(幹事長 村田哲)

# 謹賀新年

2024. 1. 1

顧問／阿部郁夫、高木清、渡部正、山内裕、賀澤賢、三井雅、鈴木健、増井宏、沢田幸、武飯塚、根本良、小峰美、齋藤保、稲沼昭、正雄

支部長／美保子  
副支部長／三雄

監事／

## 新春に思う

今年、辰年。辰年生まれの会員に、新しい年の思いなどを綴っていただいた。

### 御朱印に魅せられて

鈴木 三雄

御朱印との出会いは6年前。家族に誘われ始めましたが、その奥深さに気づいてからは率先して出かけています。御岩神社の神秘的な雰囲気。三峯神社の壮大なスケール。富士浅間神社・織姫神社等の美しさ。それぞれに違う姿があり、パワーを頂いています。日本には、いいものがあります。でも、日本語がなかなか聞こえてこない神社って？

### どうする俺

久保木勇三

昨年、義母が他界して親という存在がなくなりました。年を重ねてきたこともあり、改めて「生」ということを意識しながら相手している孫たちの成長はこの上ない喜びであり、「命」の輝きが見えてくる。さて今年、年男となった俺はどうする。年相応におだやかに過ごすという良い方法がある。一方で、老体にムチを打って、趣味の最後の修行を実践して「生」を探していくという方法もある。決めた。

### 子供のデイサービス

鈴木 則喜

放課後等デイサービスをご存知でしょうか？

放課後や長期休業中に小学生から高校生までの支援を必要とする児童・生徒を預かる児童保育です。

令和元年11月に仲間二人と立ち上げ6年目になります。

支援を必要とする子供の数が年々増加傾向にあり、現在ではいわき市内で70以上の事業所が開所しています。

### 現職校長会役員との懇談会

懇談会

#### ●教育現場の実情について

現職校長会との教育懇談会を、9月15日に平第一小学校において実施した。校長会からは大内連協会長、玉澤中学校長会長、柳沼高等学校長協理会長が参加し、退職校長会からは沢支部長と飯塚支部長、武田、村田幹事長、鶴沼会報委員長が参加した。

小学校、中学校、高等学校が抱える様々な問題について

生の声を聞くことができた。懇談の中で出た問題については、市教育委員会や教育事務所に、現場からの切実な声として届けたい旨を伝えた。

#### ●小学校では

①子どもたちにとってコロナ禍で様々な行事ができなかった影響は大きく、いろいろな面で改善、工夫をして実施している。

②働き方改革がうまくいっていない現状がある。

③教員不足で定数が埋まらない現状がある。

④教員、更には管理職への希望者減に憂慮している。

#### ●中学校では

①コロナは5類に移行したが増加中である。感染症対策を講じ修学旅行等は実施している。

②特別支援学級が増加している。復興加配が減少している。復旧加配に依存している部分の改善が必要だ。少人数学級への未配置、補充教員の不足がある。

③生徒指導については、反社会的行動は激減し、人間関係が構築できない非社会的な生徒の増加がある。

④働き方改革について、市の部活動対策の効果があり、合同チーム編成が進んでいる。地域移行の方は難しい。

#### ●高等学校では

①共通テスト、受験等これらが本番なので、エアコンの運用を9月末まで延長した。

②学校の特色化を図りコース制を導入。

・医学コース：磐城高校  
・教育コース：磐城桜が丘高校  
・福祉コース：湯本高校

中学生が150名減少したので今年は入試時において定員減になった。

③多忙化防止アクションプランに期待したい。英語、数学、国語科で講師が不足している。

(副支部長 武田幸子)



### 教育事務所長との懇談会

10月11日、佐藤所長、渡辺次長の出席をいただき、懇談会が開かれた。本会からは、沢支部長以下、5名が参加した。懇談会は、所長、次長より説明をいただき、話し合いが行われた。

●コロナウイルス感染症・猛暑・水害について  
①コロナウイルス感染症の5類移行、今夏の猛暑に対し各学校では対応・対策に鋭意努めている。

②9月の水害では、被害を受けた学校があり、再開に向けた取り組みがあった。  
●学力向上について  
総合教育計画の「学びの改革」に向け、児童生徒の資質能力育成を目指した学力向上支援アドバイザーを配置し、市教委とともに各学校の学力分析や学力向上の取り組みを支援している。

●ICTの活用について  
①各学校では、タブレット、電子黒板等を授業などで有効に活用し始めている。  
②今後、タブレットが、日常的に活用する文具のように

なることが望まれる。  
③悉皆研修を実施し、教員のメディアリテラシーの育成を図っている。

●生徒指導について  
①不登校児童生徒の居場所作りのためのSSR（校内適応指導教室）担当教員の配置を進めている。

②SC、SSWを小中学校へ配置して、児童生徒の諸問題に対応している。  
●教員不足・定年延長について

①教員不足は深刻である。若者に教員の魅力を伝えていくことも大事である。  
②定年退職の多くの教員が再任用を希望している。定年は、令和5年度61歳、令和13年には65歳となる。  
(幹事長 村田哲)



### 市教育長との教育懇談会

令和5年10月4日、いわき市教育委員会から服部教育長をはじめ、本田学校教育推進室長、鈴木学校教育課長、坂本総合教育センター所長他4名、退職校長会から沢支部長、武田、飯塚副支部長、村田幹事長、鶴沼広報委員長と根本が参加して、標記教育懇談会が開催された。以下は、

「いわき市の教育行政の現状と課題」についての懇談内容である。  
台風13号による被害状況は、菊田小、宮小、内郷二中体育館が床上浸水。菊田小は2日間の休校後に自校で授業再開。宮小は1週間後内郷二中を間借りしての授業再開となった。

少子化の進行により川前地区小学校休校措置、遠野地区の学校統合計画。  
教員の働き方改革については、教職員の精神的負担感の軽減を主に捉え、次のことを実施している。

①令和4年度より統合型校務支援システム導入による事務負担の軽減

②児童生徒の一斉下校とノー残業デーの設定  
③部活動指導員11名及び学校司書の全小中学校配置

④スクールロイヤー相談対応（小学校14校34回、中学校10校42回の実績）  
⑤小中学校部活動の体制整備と地域人材活用モデル事業（部活動運営方針改定令和5年4月）

教職員研修については、いわきの学校教育ABCプラン(A:Activity 体験活動・学習支援活動の推進、B:Base 教育の土台・学力の向上、C:Care 命や心身の健康を守る取組の充実)により、次代のいわきを担う、「生きる力」を身につけた子供の育成がいわき市教育委員会の重点施策。学び続ける教員の育成に寄与し、教育実践に直結した研修及び本市の教育課題解決に資する研修の実施。

①初任者研修68名（小学校46名、中学校18名、養護3名、栄養職員1名）、教職2年次研修69名、経験者（5年）研修I 33名、経験者（10年）研修II 34名、ミドルリーダー養成（15年）研修14名、経験者（20年）研修III 22名

(内学校栄養職員1名)。  
②職能研修IIは各校1名の悉皆研修とし学校において伝達講習実施。

③専門研修の情報教育研修においては、ICTスキルアップセミナーでICT機器教材資料活用の授業実践、操作能力向上研修（オンライン、ズームによる研修実施）

④調査研究委員会（市内教員20名の委員）による校内研修に役立つ資料提供のため研究推進—教科部会（国語、社会、算数・数学、理科、外国語活動・外国語、道徳）において授業動画作成、教科外部会（生徒指導・特別支援）において事例研究に基づいた研修資料作成、1月の教育研究発表会において2年間の研究成果の発表—  
(副支部長 根本良政)



おめでとうござい  
長寿のお祝い



賀詞

遠野・田人  
榎田幸太郎氏  
昭和10年7月16日生

7月吉日、ご自宅を訪問さ  
せていただき、賀詞の表彰状  
と記念品をお渡ししました。

先生は最近手術をお受けに  
なつて少し「ひきこもり」が  
ちであるとお話でしたが、  
それを感じさせない様々な活  
動のお話を伺いました。

岩瀬農業高校時代の同僚と、  
退職後に開催し、再開した親  
睦会に出席して旧交を温めた  
こと、司馬遼太郎の作品から  
チベットやモンゴルに興味を  
持たれて数回訪れ、さらには  
ネパールまで足を延ばしたこ  
と、興味のある近くの野仏を  
訪ねて、写真を撮って歴史的  
背景等を文章におまとめに  
なつていることなど、興味を  
持たれたことを追求する姿勢  
には感服いたしました。  
今後の、先生の末永いご健

勝をご祈念申し上げます。

(遠野田人方部委員 折笠文昭)

賀詞

草野・神谷  
西山允雄先生  
昭和10年10月14日生

10月14日は、ご自身の米寿  
記念絵画展の開催中だったこ  
とから、後日、中根孝雄会長  
とともにお祝いに伺いました。  
ご自宅では先生と奥様が温か  
く迎えてくださり、現職当時  
やご退職後のお話を聞かせて  
いただきました。

現職中は多くの小学校や自  
然の家で活躍され、「妻や同  
僚の支えがあったからこそ、  
最後まで勤務できた。」との  
お言葉に謙虚な人柄が感じら  
れました。  
退職後には、いわき育英舎、  
ユネスコ、ボーイスカウト等  
幅広く活動されておられるこ  
とに驚きました。また、自己  
流で始められたという絵画の  
作品は力作ぞろい、そのパ

ワに圧倒されました。  
ご夫妻の益々のご健勝とご  
多幸をお祈りいたします。  
(草野方部委員 小峰美保子)

賀詞

平南  
網代 光平氏  
昭和10年11月6日生

網代光平先生の誕生日であ  
る11月6日、ご自宅に賀詞の  
お祝いをお届けいたしました。

立派な門構えのご自宅、そ  
の玄關脇の書齋で、先生と奥  
様のお二人から、お話を伺い  
ました。大学進学に力添えし  
てくださった恩師の話や県北  
教育事務所長としての教育行  
政に関わる思い出話など。ま  
た、平一小校長をご退職後は、  
地区自治会の仕事や潮学生寮  
理事會理事長を長く務められ  
たことなども、先生の自分史  
の御著『春風秋霜』。その題  
名の由来となった儒学者の言  
葉「人には春風のように、自  
分には秋霜のように」は、先  
生の人柄に相応しい座右の銘  
であると実感しました。

今後は、磐城平藩主安藤信  
正の実像に迫る創作に取り組

みたいと話され、これからも  
益々健やかに健筆をふるわれ  
ることをお祈りいたします。  
(平南方部委員 齋藤貢一)

賀詞

平北  
藤田 信正氏  
昭和10年12月27日生

令和5年12月27日、藤田信  
正先生の米寿のお祝いに方部  
代表2名でご自宅にお伺いし  
賀詞表彰と記念品をお渡しし  
ました。

最近目は目の調子が思わしく  
なく耳も遠くなつたがその他  
は比較的元気であるとのこと  
でした。

また、台風19号夏井川氾濫  
によりご自宅一階天井近くま  
で水が上がり、暫く仮住まい  
されたことや自宅改修でたい  
へんご苦労されたことをお聞  
きました。

先生が退職された平二小で  
の思い出もお聞きしました。  
平成6年に文部省指定の道  
徳教育研究発表会を公開され  
たことやその研究紀要や学習  
指導案集を開きながら、当時  
のことを懐かしそうにお話さ

れていました。益々のご健勝  
をご祈念いたします。  
(平北方部副会長 武藤忠晴)

文部科学大臣感謝状を  
受けて

八面六臂 鈴木 洋一

再任用も5年目、教職最終  
年度。2月からの産休の先生  
に補充が来ないとのこと。最  
後の御奉公と、補充の一端を  
手伝うことになりました。

短時間の午前中勤務なので、  
朝の会から連絡帳の点検に始  
まり、仮担任として1・2校  
時の授業。その後3・4校時  
は担当専科の理科と書写。思  
いがけずも2か月間、月曜か  
ら金曜まで、毎日あわただし  
くも、充実した日々を過ごす  
こととなりました。

新学期に欠員は解消しまし  
たが、教壇を去るにあたり、  
改めて今の学校の厳しい現状  
を実感し、現場の先生方の奮  
闘を祈るばかりです。

最後になりましたが、感謝  
状を頂きましたこと、誠に光  
栄と感じています。

# 5年ぶりの開催 第67回 十日会報告

1月13日、椿山荘を会場にして開催された。今年は、感染症等の完全終息に至っていないことも踏まえ、規模を縮小しての開催であった。

現職の先生方は、大内克之連協会長以下、役員、支部長まで30名。退職校長会は、山内正衛顧問以下、理事まで23名である。

菅野輝義小学校長会事務局長が進行を務めた。大内会長の開会のことばで始まる。主催者あいさつで、沢支部長は現職の先生方へ日々の取り組みへの慰労の言葉を述べるとともに、本日の会をより有意義なものにしたい旨、話された。続いて、退職校長会からのお知らせとして、村田事務局長から、

- ① これまでの会の事業経過
- ② クラブ活動について
- ③ 地域支援・学校支援
- ④ 講演会について
- ⑤ 十日会の実施 等、活動が戻りつつあることなど報告。

次に現職校長会からのお知らせとして、和田裕二小学校長会庶務から、小中学校長会や学校の現状について報告された。小学校では、

- ① コロナの5類移行後、制限のあった活動や行事が、通常に戻りつつあること。
- ② 研究面においても、県大会等が開催されたこと。
- ③ 今年度より、中学校同様4支部編成になったこと。
- ④ 中学校では、

- ① 制限のあった活動や行事、大会が実施できるようになったこと。
- ② 4支部体制の良さを生かした活動の工夫。
- ③ 東北地区中学校長会が会津で開催されたこと。

続いて、山内顧問の能登地震への配慮を胸にしてというお話の後で、乾杯をして、祝宴へと移った。各テーブルごとの自己紹介などが行われ、その後歓談の輪が広がっていった。貴重な情報交換がた

くさんあったのではと推測される。今後に生かしてほしい。会は、玉澤 淳中学校長会会長の閉会のことばでお開きとなった。5年ぶりの実施ながら得るものは多かったと感じつつ会場を後にした。



## 叙勲の榮譽に輝く



叙勲の榮に浴して 鈴木 貞安

令和5年秋の叙勲に際しまして、はからずも瑞宝双光章の榮に浴しました。驚きとともに大変光榮に思っております。

新型コロナウイルスが5類に移行したことで、配偶者同伴が可能になり、昨年11月13日、ホテル椿山荘にて勲章と勲記の伝達を受けました。その後皇居に参内し天皇陛下に拝謁を賜りました。豊明殿で陛下より



感謝

はじめに、叙勲の手続きで退職校長会事務局の関係者の皆様にお手数をおかけしましたこと、心よりお礼申し上げます。

さて、令和5年秋の叙勲に際し、はからずも拝受の榮に浴し、身に余る榮譽に感激しております。

矢祭中を振り出しに、小名浜一中、川前中、平一中、県教育センター、永井中、義務教育課、内郷三中、いわき教

片寄 信

育事務所、県中教育事務所、中村二中、小名浜一小に至るまで、各職場で一緒に過ごしていただいた先輩や同僚、職場は異なっても機会があつて出会った方々のご指導、ご支援のおかげです。深く感謝申し上げます。

今後は、この榮譽に恥じることはないよう精励して参りますので、ご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

いわき民報「ふるさと出版文化賞特別賞」を受賞して



大平 好一

思わぬ賞を頂き、身に余ることと思っております。まほろばの里高久の歩き方」を作ったきっかけは、東日本大震災を経験し、郷土の歴史や民俗芸能が心の拠り所になることを学んだことでした。

私たちの身近には、地域が歩んできた長い道のりを物語る遺産が、有形・無形となつて伝わっています。その良さに気づき、味わい、次の世代に継承していくことが、地域のつながりや人々の絆を育て生活を豊かにし、ひいてはいざという時に役立つと思っております。

この活動は私一人では出来たものではありません。一緒に高久の宝を訪ね歩いていただいた地元の方々と、趣旨に賛同し一緒に活動した若い5人の仲間がいたからです。感謝の限りです。

方部の伝言板

60

四倉・久之浜方部の近況 野木 謙三



四倉・久之浜方部は、いわき市の北東部に位置し、南は平草野地区、西は小川町、北は広野町まで隣接する広い方部です。東は太平洋を望み、美しい海岸線が続いています。特に、四倉海水浴場は、堤防から波打ち際までの距離が長く、広々とした砂浜を会場にビーチサッカーやサーフィン大会等が開催されています。

四倉・久之浜方部の退職校長会は、四倉、大野、大浦、久之浜の頭文字をとって「四久大会」と呼称しています。ここ数年コロナの影響で、活動が停滞しており、例年4月に開催されていた四大久会総会や、7月に行われていた現職の校長先生方との教育懇談会も中止が続いています。

東日本大震災以降、相双地区から多くの方々が四倉町へ転居されてきましたが、人口は減少傾向にあり、また少子高齢化が進行し、四倉地区市

四倉・久之浜方部

街地再生整備により、教育文化施設の集約化も検討されています。

コロナの影響で開催を見合わせていた各種イベントも実施されるようになり、以前のにぎわいが徐々に戻っています。7月には、道の駅よつくら港で「四倉ねぶたといわきおどりの夕べ」が開催されました。震災の津波で甚大な被害を受けた久之浜地区でも、10月の「漁港まつり」が再開されています。大久地区でも、いわき市アンテナイトセンターの体験発掘に、ゴールデンウィークや夏休みなどには、遠く首都圏からも多くの方が参加しています。

現在、当方部の会員は27名です。総会や懇談会の中止が続いていることは残念ですが、ここ数年新会員が増え、今後とも会員の増加が見込めますので、1日も早く通常の活動が戻ることを願っています。

ご逝去を悼み心からご冥福を祈ります

故大友 誠三先生

誕生 昭和11年2月14日 逝去 令和5年6月19日  
遺族 大友育也

故齊藤征一郎先生

誕生 昭和17年9月3日 逝去 令和5年7月15日  
遺族 齊藤健一郎

故久保田義男先生

誕生 大正15年3月7日 逝去 令和5年8月23日  
遺族 久保田 竹彦

故御代田公男先生

誕生 昭和12年8月21日 逝去 令和5年8月31日  
遺族 四家真理子

故小宅 章夫先生

誕生 昭和9年4月2日 逝去 令和5年9月23日  
遺族 小宅光行

故鈴木 茂先生

誕生 昭和3年3月7日 逝去 令和5年11月11日  
遺族 鈴木英俊

故矢吹 幸久先生

誕生 昭和9年10月20日 逝去 令和5年11月13日  
遺族 矢吹幸也(いわき市四倉町西三丁目5-2)

故吉田 正先生

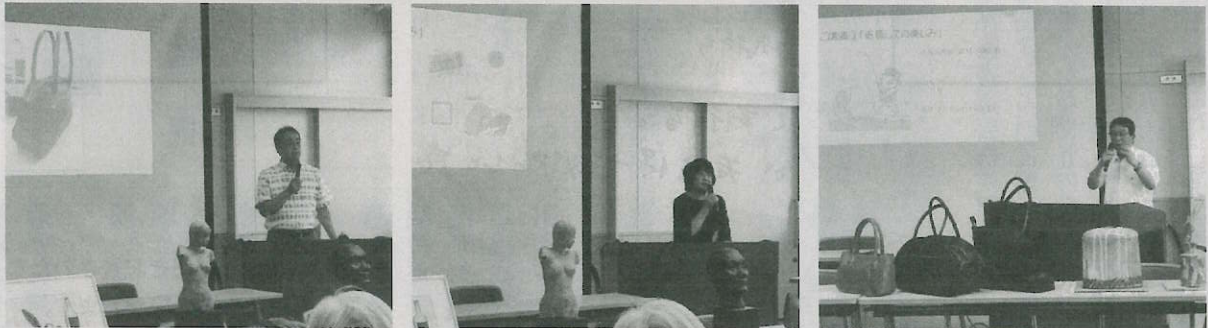
誕生 昭和11年9月1日 逝去 令和5年12月12日  
遺族 吉田美代子

故高萩 貞弘先生

誕生 昭和11年4月14日 逝去 令和6年1月15日  
遺族 高萩弘一

今年も、たくさんの元気をいただきました

## 第2回 講演会開催される



8月26日、中央台公民館において、第2回目となる講演会が行われた。今年講演いただいたのは、武藤忠晴氏・佐久間静子氏そして高羽博樹氏の3人。

共通の演題は「退職しての楽しみ」。そして3人に共通しているのは、多趣味であること、そしてそのどれをも自ら求め、心から楽しんでやっていること。3人とも笑顔で生き生きと話してくださった。聴くほうも勿論笑顔。幸せな時間となった。

最初に話してくださった武藤氏の楽しみは、陶芸・革細工・旅行バイクなど。その中でもバイクでのツーリングを中心に話された。各地へのツーリングの中から写真や動画も交えての説明は、臨場感たっぷり。また取り組み始めて10数年が過ぎる、陶芸の作品や手作り感がしっかり伝わってくる革細工のバックなども展示され、その出来映えに感心しきり。

次に話してくださった佐久間氏の楽しみは、彫塑・絵画・タイルづくりなど。彫塑は学生時代から続けていること。各種展示会への挑戦も欠かさない。まさしく“継続は力”のお手本である。氏の作品をご覧になった方は、多数いることと思われる。この他にも様々な活動を行っている。氏の手帳をのぞかせてもらおうと、予定でびっしり埋まっている。そのバイタリティには驚かされる。

3人目の高羽氏の楽しみは、釣り・木工・切り絵、料理など。切り絵は、私たちがイメージするものとは、少し違い裏から和紙を貼り、着色するもの。(実際、作品をさわらせていただいた。)木工で造ったのは木の鞆。人気商品になったとのこと。これからの目標は居酒屋を開くこと。マイ包丁を9本も持っておられるという。夢が実現することを……。

3人の先生とも 現職の頃から続けているもの。退職してからはじめての  
 といかに楽しんで行っているのかお話しして ステキでした。  
 秋からは、好きなお仕事、楽しんで行っていることばかりが印象的でした。  
 私も退職後続いていることがお話しが、楽しんで行っていること、どう  
 かという苦しみを感じ、上向きに行きたい、楽しく行きたいです  
 先生方の話から、環境を変えるヒントがいろいろあるのは、

• 3名の先生方の「退職しての楽しみ方」を聞いて  
 大変勉強になりました。  
 これからの人生に生かしていきたいと思いき、  
 何歳かして「夢中に楽しんでいる」ものが  
 あるといふことは、生きがいにもつながると思いき

• 3人の講師の話、自分も楽しむ  
 中にならば、中々には、楽しん  
 • 次回もやる時  
 • ITになった方の、経験談  
 • 独自の健康法を、実施している方

何かを好き、というですね。  
 やってみたい、という好奇心、というですね。  
 表現する、楽し。  
 今、この余裕がある時に、時々、楽しむ、というですね

# 文芸欄

## 詩

### 忘れもの

渡邊 隆

テーブルの上で  
ここまで歩いてきた  
言葉たちが安らいで  
眠っている

忘れていた  
その世に置いてきた  
預けている何か

寄せ付けない  
触れさせない  
静かに無音で立っている

湧いてくる言葉は  
壊れてしまうほどの  
脊髄の震えに耐えて  
魂の最も奥深いところで  
呼び出しを待っている

芯を抱え  
咲きながら衰えを内に包んで  
端から黒ずみ  
茎は絶望して根や花の  
再生を夢見る

## 書

草刈民代の言葉

丹 美枝

(46×167cm)



令和5年の第76回書道芸術院展出品作で、朝日新聞に掲載された俳優の草刈民代さんの言葉からの創作です。

覚悟の先にある新たな世界の広がりこそ、歳を重ねる醍醐味でしょう。人生を楽しむために、自分自身の変化に敏感でありたいですね。と、草刈さんの言葉は続きます。

この作品で秀作に入賞し、無鑑査から審査会員候補に昇格したものの、近代詩文の創作に取り組む度に、自分が越えねばならない壁の高さ厚さに悩む日々です。

種子は根を張らず  
未来からの  
誘いを待つ

光の波間から  
輝きながら  
言葉が  
生まれてくる



## 短歌

白鳥

伊藤 一泊

白鳥の川の流に抗ひて列  
なす群れの嘴川上に

白鳥の憩ふ中州の白浜に脚  
を浸して首羽に入れ

妻

高橋 眞次

「只今」と言へば「お帰り」  
そんな事当り前だがごく幸  
せ

子と植えし卒業記念の梅の木  
の花満つるなか妻は逝きたり

## 絵画

明日を見つめて (F15 水彩)

鈴木 廣美



7月の定例会の課題は人物。モデルはALTのライアン先生。数日後には、中国の長春に居を移し、新しい仕事に就くという彼女の、明日を見つめる目差しが印象的でした。

## 俳句

小幡 絃夫

紛争の地を想い

戦の野にもひびけや除夜の鐘

未だに忘れがたく

あこがれは君と連れだつ

花野かな

花

芳賀 利允

寒椿咲きて路地裏なお狭し

返り花八十路の坂を豊かにす

## 編集後記

年明け早々、能登地方の大地震、航空機の衝突事故と災害が続いた。被災された方々の気持ちは如何ばかりか。東日本大震災の記憶がよみがえった。とにかく前を向かなくてはとの思いで、過ごしていた日々を。世界を見渡しても、あちこちの戦争の終結は、見えてこない。今年こそ穏やかな日々をの願いは、叶うのだろうか。私にできることは何かを考えていくことが大事なのは。会員の皆様は、どんなご意見をお持ちだろうか？